

働く人の健康を考える

ワーク&ヘルス

広島市南区金屋町8-20 TEL 082-264-4110

郵便振替口座 01310-9-42400

目次

◆ 大阪で胆管がん死7人に 国、近く全国調査発表

◆ **広島市とアスベスト問題で交渉**

整理・合意に至る！

◆ 日通1,4億円支払い命令

神戸地裁支部 石綿搬入「指導なし」

◆ 大阪の住民中皮腫に

西成区 市内初の石綿被害か

◆ 第3回代替医療としての新経路治療について

友和クリニック 宇土 博

2012年 8月 1日

第207号

広島労働安全衛生センター

大阪で胆管がん死 7 人に 国、近く全国調査発表

大阪市内の印刷会社で働く人に胆管がんが多発している問題で、無くなった人が 7 人に上ることが朝日新聞の調べで分かった。

発症者は 12 人になる。厚生労働省は全国約 500 の印刷事業所で調査結果を発表することを表明している。被害者はさらに広がる可能性がある。

私たちセンターもこれらの情報に基づき、監督署に現在の状況を不十分ながら聞くことができましたので以下報告します。朝日新聞によるとこの印刷会社では、これまで男性 10 人が 20～40 代で胆管がんを発症したことが明らかになっていました。新たに判明した 2 人は 1980～90 年代に働いていた元従業員で、10 人と同じく、いずれも印刷見本を試し刷りする校正印刷作業に従事し、いずれも 30 代で発症していた。本来は 50 歳以上に多い病気とされる。

実態を調べた産業医科大（北九州市）の熊谷信二准教授（労働環境学）は、印刷機のインクを拭き取る洗浄剤に含まれていた化学物質「ジクロロメタン」「1, 2ジクロロプロパン」が原因となった可能性を指摘。元従業員ら 6 人が労災申請している。宮城県内の別の印刷事業所でも 2 人が発症し、労災申請した。

大阪府内 5 大学病院の臨床医らは胆管がん患者の実態調査を始める。中心になっている大阪市立大肝胆脾外科の久保正二・病院教授は東北大とも連携。全国的な調査を目指す決意を述べている。以上が朝日新聞に掲載された記事です。

他方、監督署からの情報によると、この洗浄剤に含まれている化学物質「ジクロロメタン」「1, 2ジクロロプロパン」は有機溶剤のレベル 3 に該当し、監督署の立場からすると「有害な物質」には当たらないという。これらの有機溶剤は比重が大きい足下に溜まり、換気扇・排気口を足下に設置していれば、こうした事故は避けられたであろうと述べられていた。これに加え、現時点で胆管がんを労災認定すれば会計検査院から指摘され省内は混乱が予想される。簡単に労災認定にはならないという。

胆管がんに関連した『校正印刷』はコストが掛かり、何処の印刷会社でも行っているものではないし県内でも限られている。現在のところ県内の監督所には胆管がんに関連した労災申請は出ていないと情報提供がされた。

7 月 3 日の朝日新聞は、胆管がんに関連した記事で「救済拒む時効の壁」「5 人、労災申請できず」との記事が掲載されていた。この遺族給付は死亡の翌日から 5 年とされているが、遺族らは強く反発している。この問題で後日、厚労大臣は時効の問題で門前払いせずに受け付けることを各労働局に指示したことが明らかになった。

厚労省の調査によると、大阪、宮城、東京、静岡、石川の各都府県の計 5 事業所で計 18 人が胆管がんを発症し、9 人が亡くなっている。引き続きこの問題で厚労省は業務との因果関係を明らかにするため、専門家チームによる疫学的調査を行うことを表明している。

広島市とアスベスト問題で交渉 整理・合意に至る！

今年の5月24日、広島市とアスベスト問題で交渉を行いました。交渉の場で整理を図れなかった問題が何点か残り継続扱いとしてきましたが、7月20日議員会館の会議室において、最終的に整理・合意に至ることができました。

以下、センターとしての質問項目と広島市としての最終回答をここに紹介します。

また、広島市との交渉に際してセンターの顧問でもある松坂市議員のご尽力によって成果を得ることが出来ました。松坂議員にはかさねて感謝を申し上げます。有り難うございました。

質問項目は全部で7項目ですが、紙面の都合でその内の主要な質問項目と回答を紹介しておきます。

質問事項

1、「肺がん検診におけるアスベスト問診票について」

健康福祉局保健医療課「6月から受診者全員にアスベストスクリーニングについて周知。7月からは、健診の問診票にアスベスト管連の職歴の有無を追加し、受診者全員に聴き取りによるスクリーニングを開始」その結果、この間に15人が健診をされた。

2、「廃止されたアスベスト製品製造工場を起点に半径2～3キロを対象地域にして健康診断を広報通じて重点的に取り組んではどうか」「これに関連してアスベストに関する講演をしてもらおうと問題意識の喚起につながると思う。」

健康福祉局保健医療課「今月のひろしま「市民と市政」7月15日号に掲載。他の健康問題もあるので毎月とはならないが、今後も継続して取り組んでいきたい」と表明。

環境局環境保全課「住民への広報については、ホームページの拡充や、今後住民の意向を把握しながら市政出前講座などを活用」することを表明。

3、ホームページに記載されている「アスベスト製品製造工場の廃業時の調査結果について」

環境局環境保全課「指摘のとおりホームページの記載は、誤解を与える調査結果なので修正・改善し詳しい内容は、厚労省のホームページにリンクさせていただきました」

4、「市有建築物のアスベスト調査に関して」は、市営住宅建設時（昭和42年～44年）にかけて鉄筋コンクリートが大半使用され、懸念されていた鉄骨は使用されていないと回答。

5、旧市民球場解体時に大手町町内会の方が現地入りしたいと申し出たが断られた事例について、施設所管課は「調査したが事実確認が出来なかった」しかし、今後は解体時に住民から問い合わせ等があった際には、関係課（施設所管課、工事担当課、環境保全課）が連携し、説明を行っていくと回答。

センターとして今後は、広島市の回答を受けて点検を行いながら1年後に再度、交渉を申し入れることを確認して整理を図ることとしました。

日通 1, 4 億円支払い命令

神戸地裁支部 石綿搬入「指導なし」

兵庫県尼崎市のクボタ旧神崎工場などでアスベスト（石綿）の搬入作業をし、中皮腫などで死亡した「日本通運」元社員 5 人の遺族が、日通に計 2 億 2 2 5 0 万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が 6 月 2 8 日、神戸尼崎支部であった。同支部は日通が、社員の安全に配慮しながら働かせる義務を怠ったと認定。慰謝料計 1 億 3 7 4 0 万円の支払いを命じた。

判決によると、元社員 5 人は 1 9 5 0 年代から 8 0 年代の間、日通尼崎港支店で運転手として勤務。石綿を神戸港から工場へ運ぶ仕事などに就き、2 0 0 0 年以降に中皮腫や肺がんを発症してそれぞれ死亡した。富川照雄裁判長は、日通が「保護具の必要性を認識しながら、有効なマスクを準備せず、装着の指導もしなかった」などと指摘した。

原告らは 0 9 年 1 月、日通とクボタ（本社・大阪）を提訴。うち旧神崎工場に出入りしていた元社員 4 人の遺族は今年 3 月、クボタと 1 遺族あたり 1 千万円の補償金で和解し、日通との訴訟だけが続いていた。

原告代理人の村川昌弘弁護士は「石綿を運んだ運転手への賠償責任が認められたのは初めてではないか。全国の運送業者は厳粛に受け止めてほしい」と話した。日通広報部は「判決内容を検討した上で、対応を検討したい」との談話を出した。

朝日新聞より掲載

大阪の住民中皮腫に 西成区 市内初の石綿被害か

建材製造・販売会社「日本インシュレーション」（旧・大阪パッキング製造所、大阪市浪速区）は 7 日、1 9 6 4 年に閉鎖した同市西成区アスベスト（石綿）関連工場の近くに住んでいた 7 0 代の男性が、中皮腫を発症したと発表した。支援団体によると、大阪市内で地域住民の石綿被害が表面化したのは初めて。

同社は会見で「当時、石綿の危険性は知られておらず、規制もなかった。法的な責任はない」との考えを示した。ただ、工場が稼働していた時期に近隣に住んでいたことを証明できる人には、健康診断を同社負担で実施するとしている。

同社や支援団体「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」によると、工場があったのは同市西成区千本中 2 丁目。戦前から石渡をつかった保温材を製造していた。男性は近くで生まれ育ったといい、石綿とは無縁の別会社に事務職で勤めていたが、昨年 1 0 月、中皮腫と診断された。工場跡地には現在、公営住宅などが立っている。

同会によると、この工場の近くには高度成長期、ほかに 3 カ所の石綿関連工場があったとされ、被害者が増える恐れがあるといわれている。

朝日新聞より掲載

シリーズ第3回代替医療としての 新経絡治療について

「西洋医学は、救急あるいは外科手術、急性の感染症、早期の癌などの治療には極めて効果的である。一方、東洋医学（漢方・鍼灸医学）やアーユルヴェーダなどの伝統医学は、健康を医事や病気の予防などに有効で、病気を全体でみる点に特徴がある。また、ハーブなどの薬草は、効き目が穏やかであるが、副作用の少ないものが多い。代替医療は、一般に自然治癒力を高める、すなわち免疫効力を上げる点で有効であり、従来の西洋医学に効果のないものでも、有効な場合がある。このように、最も患者本人に適した治療方法を、最も適切な時期に利用するのが統合医療と言われている。」

統合医療の内容は、外科的な西洋医学、慢性疾患の東洋医学、老化・癌予防の抗活性酸素医学、免疫医学・再生医学、リハビリ・姿勢・環境対策の福祉工学、産業保健、感染予防の公衆衛生学が統合されたものになるであろう。これらに、ハーブ治療やアロマセラピーなども含まれてくる。

以下は、統合医療の例である。「交通事故で出血・骨折した患者に対して、麻酔をし、止血、骨折の治療、ギプス固定を行うのは、西洋医学の外科療法が最適であるが、その後のリハビリには鍼灸やマッサージが効果的である。また磁力や気功なども骨のつきをよくする。不眠には、西洋薬の睡眠薬よりも鍼灸治療やアロマセラピーが有効である。」（渥美：一部改変）

今後の代替医療の流れとしては、ホスピスや老人医療・介護への代替医療（瞑想などの精神安定療法と疼痛コントロール）の導入が望まれる。

一般に老人は、半健康人、半病人の状態のヒトが多く、老人医療の対象としては、慢性の疾病や障害が多くみられ、その経過も緩慢なものが多いのが特徴である。そのため、老人医療には効果がマイルドで、徐々に現れる代替医療が適している。また、家庭の介護に対しても、鍼灸やマッサージなどをリハビリに使用したり、生活習慣病に漢方薬を使用することが勧められる。

アメリカでは、西洋医療と代替医療を比較すると、代替医療のコストは、西洋医療の 1/3～1/10 と安価であると報告されている。コストの面からも代替医療は今後広く普及するであろう。

今回でシリーズ「代替医療としての新経絡治療について」は終了します。

読者の皆さんからご希望があれば宇生から記事の投稿をお願いしたいと思います。

います。

編集後記

兵庫労働安全衛生センターの呼びかけで7月25日、「地域センター西日本交流会」が松川町の集会所で午後2時より開催された。

この交流会は、今年4月に「岡山労働安全衛生センター」が結成されたことを受けて、岡山安全センターをどう支え発展させていくのかといった目的をもって開催されました。

交流会には、広島労働安全衛生センターをはじめとし、岡山労働安全衛生センター、兵庫労働安全衛生センター、尼崎労働者安全センター、愛媛労働安全衛生センター、関西労働者安全センター、全国センター、アスベスト疾患・患者と家族の会広島支部の8団体が結集され、総勢17人が出席されました。

交流会は自己紹介後、各センターの現状報告と活動課題について活発な交流が行われました。なかでも現在、全国的に注目されている「胆管がん」について関西労働者安全センターの片岡事務局次長より詳細な報告がありました。

報告によると、「胆管がん」を引き起こしている「ジクロロメタン」は印刷用のインクを落とす洗浄剤として使用され、揮発性の高い有機溶剤が含まれる。有害性があり呼吸器や皮膚から吸収され、体内に蓄積されるとがんを発症する。印刷業者は有害性があることを知っておきながら、劣悪な作業環境（排気装置がなかった）が労働者の健康を蝕んだと断定された。しかも洗浄剤として使用されている「ジクロロメタン」をぼろ布につけて素手で作業していることなどが報告された。

今後の課題として「胆管がん」を引き起こすまでの期間が短期間であること。洗浄剤として使用されている「ジクロロメタン」は校正印刷機だけに限らず、印刷会社では広く使用されていることも判明した。こうした経緯からすると「ジクロロメタン」がいつ頃から使用されていたのか。その調査結果によっては、潜在的な被災者がこれまで以上に発覚することは間違いないと強調された。

交流会は午後5時に終了。その後は場所を移動し、宇土先生も出席され『大増』で冷たいビールを飲みながら交流会の延長戦を行い交流を深めることが出来ました。

広島労働安全衛生センターは、個人会員・団体・賛助会員で構成されています。

そしてその会の活動は、会員の会費によって運営されています。

私たちは、働く人たちが心も、元気で働くことができる快適な職場作りの情報を提供します。

あなたも会員・読者に

◆ 会員（月）

◆ 個人 1口 400円

団体 1口 2000円 （尚、会費は本誌購読料を含みます。）

ホーム・ページはこちら

hiroshima.raec@leaf.ocn.ne.jp

<http://www.10.ocn.jp/~hicenter/>